

# みどりの風

加茂市立石川小学校  
学校だより 通算 308 号  
(令和 2 年度 第 11 号)  
令和 2 年 10 月 2 日

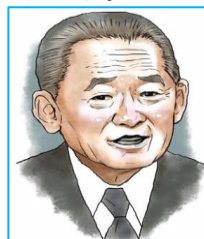
(URL) <http://www.ginzado.ne.jp/~k-iskwj/> (E-mail) [k-iskwj@educet.plala.or.jp](mailto:k-iskwj@educet.plala.or.jp)

校長 山本 哲 哉

## 「学校であったこと」を話してくれる子になってほしい

少し先の冬の話ですが、冬に植物に与える肥料のことを「寒肥え」とか「寒肥」と言います。この寒い時期に植物に栄養を与えると、春からどんどん成長し、立派に育っていくそうです。お子さんにも思いやりの心や学力への栄養を与えていきたい時期ですが、大人（教師や親）との関係がうまくできていないと、栄養も届きにくいのかもかもしれません。

さて、お子さんと会話をし、「自分の家の親ってよく話を聞いてくれるなあ」と思っていたらと思いませんか。ある政治家は、5つの相づちを巧みに使い分けて、話している相手を気分良くさせたそうです。そのポイントは、以下の5つです。



- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1 「ほーっ！」と言って、感心する。   | 2 「なるほど！」と言って、納得する。 |
| 3 「さすがあ！」と言って、賞賛する。  | 4 「なんと！」と言って、驚く。    |
| 5 「まさかあ！」と言って、もっと驚く。 |                     |

聞き上手になるための秘訣！

言い方やトーンも大事だと思いますが、お子さん会話の中で、こんな風に反応してみたらどうなるのでしょうか。この政治家は、相手の話の内容に合わせて臨機応変に使い分けて、相手の言葉にもすごく反応したとのこと。まさに「相づちの魔術師」です。こんな調子で相づちを打たれたら、お子さんは普段は話さないことまで、つい、調子にのって話をしてくれるかもしれません。ちなみにこの有名な政治家は、故竹下登元首相（DAIGOさんのおじいちゃん）だそうです。

今回、10月の全校集会では、以下のような話をする予定です。

いつもみんなの世話をしてくれる家族。「笑う門には…」の「門」は家族の意味。お世話になっている家族のために頑張るのは、順番から言うとみんなの番だ。ではどうやったら、家族を明るくすることができるか…。第1案は「ダジャレを言う」こと。確かに家族は笑ってくれるかも。でもこれは、いつも思い浮かぶわけでないからなかなか難しい。第2案は「できるようになったことを見せる」こと。縄跳びとか将棋とかかけ算とか。確かに家族は喜んでくれると思う。でもこれも、できるようになったことはいつもあるわけでないから結構難しい。では第3案。「学校であったことを1つ、話す」こと。先生のこと、友達のこと、授業のこと、あったこと、給食のこと、掃除のこと、係のこと…。何でもいから1つ話す。そうするとね、不思議なことが起きる。なぜか、家族が笑顔になってくれる。もしかしたら、「へー」「いいじゃん」って反応してくれたり、話したことに質問されたり、「それでどうしたの」と聞かれたりして、とっても盛り上がる。学校であったことを話すのは、もしかしたら、みんなの役目。そして家族を笑顔にする秘密の方法なのです。

おうちの人には、「学校であったことを話したら、よく聞いてあげてください」、「話してくれて嬉しかったよと伝えてください」って、校長先生からもお願いをしておくから…。

さあ、今日からやってみよう。いつも家族に話しているよって言う人は、いつも話す人以外（例えば、いる人はおじいちゃんとか）に話してみてください。家族を明るく元気にするのは、あなた方です。全力「笑」年なら「やればできる！」。石川「笑」学校づくりも頼みます。

もし、学校での話を子どもがしてくれたら、まずは大きくうなずいて聞いてあげてください。聞きてくれる人には、少しずつ話すようになると思います（前回の学校だよりでも、「話を聞く親」のことを載せました）。そして、可能であれば、担任に「昨日～の話をしてくれました」と届けてください。嬉しかったこと、良かったこと、困っていることなどの情報を共有し、大人ががっちり連携することで、石川小の子どもたちをさらに大きく伸ばしていけると思います。